

## マエストロからの メッセージ

紀尾井シンフォニエッタ東京との共演にあたって、とても興奮しています。紀尾井シンフォニエッタ東京は日本で最も洗練されたアンサンブルの一つであることや、尾高忠明氏による偉大な業績について、多くの素晴らしい話を聞いてきたからです。

紀尾井シンフォニエッタ東京およびチュマチェンコさん、玉井さんという魅力的なソリストと共に、モーツァルトやシューベルトを演奏する機会を特に嬉しく思っております。ウィーン生まれの指揮者として、その独特な音楽の作り方を探求し、共に分かち合うことには、いつも特別な誇りを感じます。紀尾井シンフォニエッタ東京のお客様とメンバーの皆さまと一緒に、音楽の旅路を始めることを大変嬉しく思い、2015年4月24日と25日のコンサートを楽しみにしております。

サッシャ・ゲッツェル



# 雄風ゲッツェル、 新たな息吹をもたらす

紀尾井シンフォニエッタ東京第99回定期演奏会に登場するのはサッシャ・ゲッツェルです。これまでにNHK交響楽団への客演、また2013年からは神奈川フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者に就任し、その評価と知名度は日本国内でも高まっているところ。ウィーンを拠点に世界を駆け回り、今まさに飛ぶ鳥を落とす勢いで活躍中の注目すべき指揮者です。

ゲッツェルは2014年7月、芸術監督および首席指揮者を務めるボルサン・イスタンブール・フィルハーモニー管弦楽団を率いてBBCプロムスに華々しくデビューし、英国の主要各紙で絶賛されました。また11月には、本国ウィーン国立歌劇場のモーツァルト「フィガロの結婚」を指揮し、指揮者とオーケストラのコラボレーションにより、素晴らしい仕上がりで大変魅力的なものになったと評論家たちから高い評価を得るなど、その活躍ぶりから目が離せません。

ゲッツェルが今回聴かせてくれるのもモーツァルト。「2つのヴァイオリンのためのコンチェルトーネ」は、モーツァルトが18歳の時(1774年)の3楽章からなる作品で、コンチェルトーネとは協奏曲と交響曲の中間に位置する楽曲を指しています。ヴァイオリン独奏を務めるのは、名教師にして名演奏家であるアナ・チュマチェンコと、その弟子であり当団コンサートマスター玉井菜採の2人です。息の

合ったハーモニーがゲッツェルの歌心によって、さらなる美しい調和へと昇華します。続くモーツァルト「ヴァイオリン協奏曲第4番」は、第1楽章の冒頭主題の力強いリズムから「軍隊」というあだ名を持っていますが、全体を通して明るく流麗なメロディーで愛されている名曲です。チュマチェンコの演奏で聴くことで、この曲の魅力を再認識するよい機会となるでしょう。

そしてプログラムの後半は、シューベルト「グレイト」。当団での演奏は、ライナー・ホーネック指揮による第74回定期演奏会以来です。同じウィーンのマエストロでもどのような違いを聴かせてくれるのか、音楽界の雄風(勢いよく吹く)気持ちの良い風(ゲッツェル)が、紀尾井シンフォニエッタ東京に新たな息吹を吹き込む期待の公演を、どうぞお聴き逃しなく。



アナ・チュマチェンコ photo:三好英輔



玉井菜採 ©尾形正茂

紀尾井シンフォニエッタ東京  
第99回定期演奏会

雄風ゲッツェル、  
新たな息吹をもたらす

4.24 金 19:00

4.25 土 14:00